

令和 6 (2024) 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 西淡路小学校 学校協議会

1 総括についての評価

教員の働き方が報道等でも取り上げられるようになっている。須賀の森学園の教職員にも健康的で働きやすい職場環境になっていってほしい。そんな中で、教員の時間外勤務時間が減ってきてすることはうれしく思う。

不登校やいじめなど学校が抱える課題は年々増えていっていると思う。そんな中でも、人権教育を基軸とし、集団育成を行っていくことが、改めて今の時代に求められている。小中一貫校として、だれひとり取り残さない集団育成に全力で取り組んでほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。（R5年度 78.7% R6年度 77.5%）

毎学期いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めてもらっていることはよくわかる。実際にいじめの認知件数が増えているということは、子どもたちがいじめについての意識が高まっているからだと思う。認知したいじめを重大な事案にしないよう、今後も徹底した組織的な支援が必要である。現在のいじめは校内で発見できるものだけではなく、SNS等でのものもあり、複雑化している。教員から児童生徒への指導だけではなく、子どもたち自身が当事者意識をもって、互いに意識して生活できるような取り組みにしていかなければならない。

年度目標：年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（R5年度 3% R6年度 4%）

不登校といっても、家庭によって要因は様々である。学校で何かあったから不登校になるというより、本人の特性や家庭の生活に起因する不登校が圧倒的に多いのではないか。また家庭環境もひとり親家庭や共働きの家庭が多くなっており、保護者も朝学校に我が子を送り出せないまま、仕事に行ってしまうという家庭も増加している。学校の教員だけでこのような家庭にアプローチし、状況を改善していくのは非常に困難であると思われる。地域が力になれることがあるのなら積極的に行っていきたいが、昨今ではそのような情報でも個人情報ということで、なかなか支援に入っていきにくい。区役所や教育委員会の力を借りて、少しでも子どもたちの支援の手が増えることを期待する。

3 今後の学校園の運営についての意見

昨今、いじめや不登校の問題、外国籍の児童数の増加等、学校が対応しなければならない課題が多すぎるように思う。そのうえ学力・体力の向上を迫られICTの導入をはじめ、様々なものが学校に入ってきた。教員は子どもと触れ合い、お互いの信頼関係の下、授業を大切に進めていくことにやりがいを感じるべきである。しかし、様々な対応に疲弊し、職場を去る教職員も毎年のように出ていることが本当につらいことである。教職員の皆さん、明るく、やりがいをもって、笑顔で子どもの前に立つ。そんな小中一貫校を築き上げてほしい。来年度、小中一貫校となって10年目を迎える。もう一度、教育の目的を見直し、子ども主体で地域に開かれた須賀の森学園の姿を、地域も一緒に模索していきたい。